

《履修上の留意事項》・この演習は、全回を通じて2つのグループに分けて実施する。

《担当者名》 近藤里美 skondo@hoku-iryu-u.ac.jp 下出理恵子

【概要】

「音楽理論」で学習した知識をもとに、音楽を療法的に用いるために必要な鍵盤楽器の知識と技能を習得する科目である。

【学修目標】

音楽療法を実施するために必要なピアノおよびシンセサイザーの基礎知識と演奏技能を身につける。

1. ピアノで様々な調性音階スケールを弾くことができる。
2. 楽譜を読み取り、音楽的表現ができる。
3. シンセサイザーの機能を理解し基本操作ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法の説明	近藤里美 下出理恵子
2) 9	鍵盤楽器演奏の基本	・フィンガー・トレーニング、タッチ、フレージング、アーティキュレーションの習得 ・音階スケールの理解と演奏技能の習得 ・演習と自主学習	近藤里美 下出理恵子
10) 17	読譜と作品の分析・演奏	・複合楽譜の読譜とピアノ演奏表現方法の統合 ・演習と自主学習	近藤里美 下出理恵子
18) 23	読譜と作品の分析・演奏	・ピアノ演奏表現方法の応用 ・演習と自主学習	近藤里美 下出理恵子
24) 29	シンセサイザーの操作	・シンセサイザーの基礎知識の理解と操作の実際 ・シンセサイザーの音色の選択と演奏技能の応用 ・演習と自主学習	近藤里美 下出理恵子
30	まとめ	・鍵盤楽器の療法的活用に関する要点整理と各自の課題点の抽出	近藤里美 下出理恵子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点 50%、授業内で行う技能達成確認テスト50%

【教科書】

特に指定しない。必要な資料・楽譜は授業で配布する。

【参考書】

- ・久保勝義 監修 「現代ハノンピアノ教本 新標準版」ヤマハミュージックメディア 2016年
- ・菅田文字 著 「弾き語りキーボードセッション1 音楽療法の必須100曲 高齢者編」あおぞら音楽社 2009年
- ・菅田文字 著 「弾き語りキーボードセッション2 音楽療法の必須100曲 子ども編」あおぞら音楽社 2010年
- ・菅田文字 著 「弾き語りキーボードセッション3 音楽療法の必須100曲 おとな編」あおぞら音楽社 2010年

【備考】

- ・この授業は、個々の能力に沿った個人レッスンを基本とする。

【学修の準備】

- ・あらかじめ配布された楽譜をもとに、十分な事前練習を行うこと。

- ・毎回の授業後には、各自の課題点を整理し十分に復習すること。
- ・事前学修・事後学修に各々80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

近藤里美（音楽療法士）、下出理恵子（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び介護老人保健施設での実務経験を活かし、音楽療法に必要な鍵盤楽器の技術演習を行う。